

平成22年6月1日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520386

研究課題名（和文） 「訓点資料総目録平安時代編真言宗の部」の作成

研究課題名（英文） *Compiling the Catalogue of Kuten Materials of the Heian Period: Part of the Shingon Sect*

研究代表者

月本 雅幸（TSUKIMOTO MASAYUKI）

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：60143137

研究成果の概要（和文）：

日本において漢文に日本語の読みを記入した資料（訓点資料）は大量に存在しているが、近代的な国語学的研究が開始されてから100年余りを経ても、その全貌は明らかになっていない。今後の研究を発展させるためにその総目録の作成と完成が望まれるところであるが、短期間にそれを遂行することは容易ではない。そこでまず、平安時代の仏教の世界で作成された訓点資料のうち、真言宗において作成されたものの目録を作成しようと試みたものである。

研究成果の概要（英文）：

There are large amount of classical Chinese texts written in Japan. On these texts, Japanese readings (gloss) were often added. As materials for the studies of old Japanese, these readings have been researched for more than a century. There has been, however, no detailed and comprehensive catalogue of materials which contain Japanese gloss, *kuten* materials. We have thought that a catalogue of *kuten* materials should be edited for the developments of the studies in this field. From this point of view, as the first step, we have tried to compile the catalogue of *kuten* materials written by the Buddhist monks who belonged to the *Shigon* sect in the *Heian* period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：訓点，訓点資料，日本語資料，古訓点，日本語史，目録

1. 研究開始当初の背景

| (1) 古訓点資料の研究は明治末年以来， 1

00年以上にわたって発展を続けて来たのであるが、近年は研究者人口も少なく、特に若い研究者にこの分野の研究に従事しようという者はほとんどない。いわば古訓点資料の研究は後継者を得ることができず、衰微の危機に瀕していると言わなければならない。これは単なる誇張ではなく、学界の識者にとって共通の認識である。

(2) その原因は多岐に亘るであろうが、その1つには研究対象であるところの古訓点資料の1点ごとにその所在、性格、日本語学上の価値等を記載した目録が作成されていないことがあるように思われる。このような詳細な訓点資料の目録があれば、訓点資料・訓点語の研究に従事している専門家はもとより、隣接する他分野の研究者やとりわけ若手の研究者にとって大きな利益となり、有用であろうと思われる。また、研究代表者自身にとっても、例えば平安時代の訓点資料の全体像を概観することや、それを通じて訓点に使用された言語の総体を把握することが従来に比して格段に容易なものとなるであろうと考えられる。

(3) 実は、訓点資料の目録としては既に若干のものが1930年代と1950年代に刊行されているが、現在の研究水準から見ればいずれも情報が古く、平安時代に訓点が入記されたことと見られながら、その年代が明記されていないような資料が掲載されていなかったり、1つの資料に異なる時代に数次に亘って記入された訓点のそれぞれを区別しなかったりするというように、多くの問題点を有している。

また、戦後多くの図書館について、さらに1970年代以後、京都近辺の寺院の典籍文書目録が公刊されるようになり、広く利用が可能になっているが、それでも、それぞれの目録は編纂の方針が異なり、同一の尺度で利用できないという大きな問題点がある。さらに日本語学の観点からは最も重要な、訓点の密度(詳細さ)に関する記述はほとんどない。こうして従来の目録には大きな不満があると言わなければならない。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究では、前項で述べたようなことを背景として、極めて大量に残されている古代、中世の古訓点資料の目録を作成することにしたが、もとより一挙に大量のデータを収集し、目録を編纂することは困難であるため、まずは訓点が入記された最初期に続く平安時代のものに的を絞ることとした。それ

でもなお、研究代表者1人で扱うデータとしては大きすぎるため、最初の試みとして当時は「真言宗の部」を作成することとした。これは将来は「天台宗の部」「南都諸宗派の部」、さらには「国書漢籍の部」と対象を拡大していくことが見込まれるものである。

(2) ここで重要なのは、研究代表者も従来の研究者同様、1人で全ての訓点資料原本を実見し得たものではないので、言わば間接的なデータをどのように扱うかが問題となる。確実さを重んじて間接的な情報を全て省けばデータ量としては小さなものにとどまることとなり、利用価値は少ない。

しかし、逆に他の研究者から得た情報をそのまま使用すれば、研究者毎の基準や見解の相違から、統一性のないデータとなる恐れが大きい。

そこで本研究においては、他の研究者の調査結果を標準化した上で本目録に取り込むことにした。その標準化の方法については、平成16～18年度基盤研究(C)『『訓点資料総目録平安時代編』作成のための基礎的研究』において検討したところである。

(3) このようにして、本研究は平安時代の真言宗世界において記入された古訓点資料の総体を具体的なデータによって示すことにより、古訓点とその言語の研究を格段に進めようとするものである。

## 3. 研究の方法

(1) 前項の目的を達成するため、データの採取と編集には細心の注意を払うこととした。それは単なる目録に終わるものではなく、言語資料としての古訓点資料を研究する際の拠り所とするためであり、そのための信頼性を確保するためである。具体的には次のような点について注意するものである。

- ① 書名、書写に関する奥書、加点に関する識語の類が正確に記述されていること。
- ② フコト点の種類が正確に判定されていること。
- ③ 訓点が多数種類あるときは、それらを互いに区別し、それぞれについて加点年代を明記すること。また、当該資料に加点年代が明記されていない場合には、従来のような「平安初期」「院政期」といった曖昧さを含む用語を使用せず、「1050±30年」のような、50～60年程度の幅で年代を特定したものとすること。
- ④ 訓点資料の言語資料としての価値を一定の基準で判定してあること。具体的には

個々の訓点（それが複数ある場合にはそれぞれについて）の価値をA～Dの4段階に区別して示すこと。

- ⑤ 当該資料の日本語学的な価値を特記事項として文章で示すこと。

(2) 前項の諸点に注意しながら、次の3種のデータを収集し、目録を作成して行く。

- ① これまでに研究代表者が原本調査を行った訓点資料のデータを利用し、それに検討を加えて使用する場合。
- ② これまでに研究代表者が調査したことのない訓点資料のデータを新たに採取し、使用する場合。
- ③ 当面研究代表者が原本調査できる見込みのない、引用等により間接的に知り得たデータを使用する場合。

この際、特に③の場合には、種々の観点から入手したデータを補正し、また、複数の研究者によるデータのある場合には、それらを評価した上で取捨選択を加える。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究では前述のような方法により、平安時代の真言宗系統の訓点資料の各種データを収集した。その一例を示せば次の通りである。これらのデータは別途公開の予定である。

●  
◎

1167

[書名] 秘蔵宝鑰

[巻次] 卷上・中・下

[員数] 1帖

[所蔵者] 東京大学文学部国語研究室

[登記番号] 特1-13

[本文書写年代] 仁安2年(1167)

[装幀] 粘葉装

[書誌事項] 楮紙打紙、25・5cm×15・6cm、押界7行、1行18字前後、界高22・1cm、界幅1・9cm。薄茶地後補表紙、64紙

[訓点1] 墨、仮名、1167年、A

[訓点2] 墨、仮名、1250年±30年、C

[訓点3] 朱、返点、1290年±40年、D

[奥書] 仁安二年〔丁亥〕八月廿六日於六波羅大墓清浄光院亥剋許書寫了／願以書寫力／普及諸含識／我等与一切／同生蜜巖国／

執筆 栄仁

[識語] (表紙外題下) □□/□金剛/□□

[備考] 清浄光印・栄仁は未詳。

[特色] 「秘蔵宝鑰」の全巻揃った古写本としては最古の1つ(西教本と並ぶもの)。また、同書の訓点資料として最重要資料である。加点者未詳。

[参考文献] (省略)

即ち、複数の訓点の別を明記し、かつそれぞれの記入された年代を不明なものを含めて判定し、幅を持たせて推定している。そして、記入された訓点の密度をA～Dの4段階で示し(Aが最も密度が高く、日本語学的に有用であることを示す)、その価値を示している。

さらに、[特色]として、当該資料の特質を自由に記述して利用者に便ならしめている。なお、冒頭の●は研究代表者が自分で原本を調査してデータを採取したものであること、◎は重要資料であることを示している。

(2) このようなデータを通覧することにより、まず、真言宗の世界で作られた訓点資料が大きく4つほどのグループに分類されることが明らかになる。即ち、次の通りである。

#### ① 大日経、金剛頂経などのグループ

これは大日経(大毘盧遮那神变加持经7卷)とその注釈である大日経疏(20卷)、金剛頂大教王经、金剛頂瑜伽中略出念诵经、蘇摩呼童子請問经など、経を中心とするグループである。中でも大日経と大日経疏が重要で、多くの精査されるべき資料を有する。

#### ② 儀軌のグループ

これは密教の祈祷、念诵の作法を示したもので、種類が多様で、かつ点数が多い。ただし、1点当たりの言語量は比較的少ない。大日経に関連する胎藏四部儀軌(撰大儀軌、广大儀軌、玄法軌、青龍軌)や金剛界儀軌(金剛頂蓮華部心念诵儀軌)などが重要で、また、諸尊毎の儀軌が多数ある。

#### ③ 空海撰述書のグループ

真言宗の開祖空海が自ら著述した書物であり、秘密漫荼羅十住心論、秘蔵宝鑰、三教指帰などの密教の教義を述べたものや遍照発揮性靈集、文鏡秘府論などの文学書も含まれている。また、空海の遺言を記したと伝承されて来た御遺告もこれに含まれる。真言宗の中で独特の位置を占め、また最も重視された

グループでもある。日本語学の立場から見て価値の高い資料が多い。

#### ④その他のグループ

これには種々のものを含み、それをどのように下位分類するかは今後の課題となる。

(3) こうして、大きく真言宗系の訓点資料を4つのグループに分類することができたことにより、今後はその各グループの訓点資料の言語的な特性を考察することにつながると考えられる。

同じ平安時代に記入された真言宗系の訓点であっても、その訓点が最初に記入された時期がいつか、また、それがどのように伝承されたかによって個々の資料に現れた言語的な性格は大きく異なって来る。例えば前項のうち③の空海撰述書のグループについて言えば、意外にも平安時代前半、即ち9、10世紀の訓点資料は極めて少なく、大半は12世紀に訓点が記入されたものであることが明らかである。訓点記入は当該の書物の当時における研究の成果を反映するものであるから、空海撰述書の研究が本格化したのが12世紀に入ってからであることが想像されることとなるのである。

(4) このように、本研究は今後、作成する訓点資料目録の対象の幅を広げ、これを平安時代から鎌倉時代へ、真言宗関係から天台宗や南都諸宗派等へと拡大することによって、最終的には古代・中世の古訓点資料全体の目録を作成することにつながって来る。ただし、その場合には、もはや研究代表者が1人の目でデータを標準化して示すことは著しく困難となることが予想され、複数の研究者による編纂と、データの標準化の手法を検討することが方法論上必要になってくることが見込まれるものであり、これが今後の課題として残されると考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 月本雅幸, 訓点資料の基本的問題について, 古典語研究の焦点, 査読無, 巻号なし, 2010, 589-605
- ② 月本雅幸, 古訓点の改変について, 国語と国文学, 査読無, 85巻8号, 200

8, 1-13

- ③ 月本雅幸, 2006年・2007年における日本語学界の展望 総説, 日本語の研究, 査読無, 4巻3号, 2008, 1-4

- ④ 月本雅幸, 訓点資料目録について, 國學院雑誌, 査読無, 108巻11号, 2007, 257-266

[学会発表] (計0件)

[図書] (計1件)

月本雅幸, 藤井俊博, 肥爪周二編, 古典語研究の焦点, 武蔵野書院, 2010, 997ページ

[その他]

ホームページ等  
今後開設の予定である。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

月本 雅幸 (TSUKIMOTO MASAYUKI)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号: 60143137

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: